

平成25年度 博物館職員アンケート調査による博物館基本構想(案)

1、基本理念

①「木更津市」がわかる展示を目指します。（「郷土」の博物館）

②誰にも優しい博物館を目指します。

③何度でも行きたいと思ってもらえる変化する博物館・ときめく博物館を目指します。

④記憶に残る博物館を目指します。

⑤市民参加型の博物館運営を目指します。

2、基本方針

①総合的な博物館として展示分野は 歴史・民俗・自然・産業・美術工芸 などあらゆるもの。

リニューアル構想 正統系（通常の展示・テーマ別） ①

（改装の程度） 異端系（通常の枠を超えた混在型？） ②

（全く新しい、斬新な発想？） ③

両者の比率 ①>②

≤

プチ改装 or フル改装 ③

「郷土」の博物館であること。

②資料に触れることができる展示（ハンズオン）、音声・点字解説の多用。体験ができる展示。

バリアフリーを超えて、ユニバーサルデザインへ近づくことに取り組む。

英語・中国語・韓国語の説明パネルを併記。

写真やイラストはできる限り大きくする。→できれば原寸大

解説文やキャプションは簡潔に大きく

③展示が固定化しないよう、変化を恐れず、常に情報を発信することを目指す。

定期的なイベント、特別展・企画展の実施

⑤博物館の使命、活動内容を示すことで、市民の理解・協力を引き出すことを目指す。

3、その他

①木更津市の地域性をアピール

→金鈴塚古墳出土品がメイン／東京湾を介した文化交流／小櫃川流域という視点

展示資料に係るマップ

エントランスで空中散歩 → 木更津市域の空撮を床面展示（過去と現在）

太田山公園の解説（動植物・石碑・戦争遺跡等）も含めたフィールドミュージアム

②視聴覚障がい者などが安全に来館、見学できる環境づくり（旧安西家住宅含む）

解説文の差別化 → 解説文は簡潔に、詳細は解説シート・タブレット等情報端末を導入して活用

照明・空調等施設設備の整備 → 施設課・文化庁との協議

③最新調査研究成果の活用（発掘調査・共同研究・市史編纂事業など）

他館（成功館や話題館）に学ぶ

旭山動物園

行動展示

参考事例等

三重県博物館

混在展示

リピーター と新規来館者

どちらに（どちらも）比重を置く？

④歴史叙述（通史）展示と、木更津を特徴づける断面を切り取ったテーマ展示室を併設。

例）金鈴塚・望陀布・真里谷武田氏・木更津船・請西藩・昭和20年・市指定文化財…

特定事項に専門性を持った展示をすることで館の独自性・特徴を打ち出す。

床・壁・階段すべてを展示に利用して館全体をフル活用した展示。

展示のトピック 金鈴塚と上総掘り

⑤あなたの作る博物館（一室を開放し、プロデュースをお願いします。）

博物館の学術性・専門性を妨げてはいけないが、市民の自由な発想を活かす。

対話コーナーの新設（アンケート用紙などで質問を受けた内容に回答する。）

展示のリクエストの多い写真・浮世絵を定期的に短期間展示。

教えてコーナーの新設（例えば、土器は、なぜ ばらばらに壊れて出土？（経年変化・化学変化

・素材の状態…）その理由を解説し、そこから物の大切さを学んで貰う。→

アンケート「どんな博物館であれば楽しいですか？ あなたの夢を教えてください。」等を問う。

一番の難点・逆境を逆手に取る

階段しかない館内の壁を利用・博物館への長い坂道を利用（博物館への道程を楽しむ様な方策？）

それこそ坂道の両サイドを花など一杯にし、自然を満喫とか（かなり管理等手間かかりそうだが、それこそボランティア・友の会や市民団体等を巻き込む）

失敗コーナー（話せる？）

裏方コーナー（バックヤードを見せる）e t c

例えば、講座の後、勾玉コンクール等 製作をして、表彰をする

入場券のナンバーを抽選等に活用【人気の行事（美術鑑賞等）の優先枠獲得や景品が貰える等】

コラボ（どこと）

近年の街並みの変化について写真・エピソードを募り、今後の街づくりのメッセージを集める。

木更津の風景・イベントなどの写真を集め、木更津の魅力を発信する。

館独自のキャラクター新設

未使用展示ケースの有効活用

書画・上総掘りの用具の取扱い

撮影可・不可のスペースと資料を分ける。（例：1・2・4展示室は除くなどのエリア分け）